



CEO Remark

オリンパス株式会社 | 社長兼CEO シュテファン・カウフマン | 2024年2月14日

(スライド1)

- CEOのStefan Kaufmannです。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2024年3月期 第3四半期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

令和6年能登半島地震の影響

☑ 被害の状況について

- 人的被害：
当社グループ従業員への被害は特段発生なし
- 営業拠点の状況：
当社グループの金沢支店と新潟支店には特段の被害なし
- 生産部材のサプライヤーの状況：
地震の影響により、部品サプライヤーにおいて操業を停止。なお、操業再開の時期は未定
- 当社の対応：
状況が不透明なことから念のため日本の工場での新たな内視鏡製品の生産のスピードを落とす予定。また、内視鏡製品の修理およびサービス対応を優先し、患者さんへのケアと医療機器製品の供給を維持する

☑ 業績への影響について

- 2024年3月期の業績見通しには、売上高に約240億円の影響額を織り込む。2025年3月期の業績等に与える影響は現在確認中
- 減産に伴う減収分については、来期に確保するため、当該サプライヤーと緊密に連携し、早期の操業再開に努めている



(スライド3)

- 初めに、能登半島地震により、犠牲になられた方々ならびにご家族、関係者の皆さまに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
- まず、当社グループ従業員への被害は特段発生しておりません。当社グループの金沢支店と新潟支店にも特段の被害はなく、また当該地域に当社グループの工場はありません。
- 先週金曜日と本日の午後に、適時開示を行っていますが、その背景について冒頭お話をさせていただきます。
- 当社は、石川県に所在するサプライヤーから内視鏡部品を調達していますが、今回の地震により、当該サプライヤーの工場が被災いたしました。現在、当該サプライヤーにおいては生産を停止しており、操業再開の時期は未定です。当社はサプライヤーと緊密に連携し、可能な限り一刻も早い生産再開に向け、積極的に支援しています。
- また、同じような部品を製造している他のサプライヤーとも緊密に連携し、可能な限り早期に生産量を増やせるよう努力しています。しかし、状況が不透明なことから、念のため新たな内視鏡製品の販売のスピードを落とし、スペアパーツ在庫の確保に加え、内視鏡の貸し出しを増やすなど内視鏡製品の修理およびサービス対応を優先して、患者さんへのケアと医療機器製品の供給を維持してまいります。
- 業績への影響として、2024年3月期の業績見通しに、売上高約240億円の影響額を織り込んでおり、2025年3月期の業績等に与える影響は現在確認中です。
- なお、こちらの見通しはあくまで生産の回復に遅れが生じるというシナリオに基づいており、すべてのスコープが供給不足の影響を受けているわけではございません。例えば、気管支鏡などの治療機器事業のスコープや外科用スコープは、遅滞なく製造され、顧客に届けられます。また、今期の減収分に関しては、2025年3月期に期ずれすると見込んでいます。

2025年3月期からの執行役体制



竹内 康雄

取締役 代表執行役 会長兼 ESG
オフィサー (ESG担当役員)



シュテファン・カウフマン

取締役 代表執行役 社長兼 CEO
(最高経営責任者)



フランク・ドレバロウスキー

執行役 エンドスコピックソリューションズ
ディビジョンヘッド
(最高内視鏡事業責任者)



倉本 聖治

執行役 セラピューティックソリューションズ
ディビジョンヘッド
(最高治療機器事業責任者)



泉 竜也

執行役 チーフファイナンシャルオフィサー
(最高財務責任者)



ガブリエラ・ケイナー

執行役 チーフストラテジーオフィサー
(最高経営戦略統括責任者)

異動



小林 哲男

執行役 チーフマニファクチャリングアンドサブ
ライオフィサー (最高製造供給責任者)



アンドレ・ロガン

執行役 チーフテクノロジーオフィサー
(最高技術責任者)



ボリス・シュコルニック

執行役 チーフクオリティオフィサー
(最高品質法規制責任者)



大月 重人

執行役 チーフヒューマンリソースズオフィサー
(最高人事総務責任者)

新任

新任

(スライド4)

- 次に、先日発表した2025年3月期からの執行役体制についてお話いたします。
- 4月より新たに3人の執行役を迎えるとともに、現在セラピューティックソリューションズディビジョンヘッド（最高治療機器事業責任者）を務めているガブリエラ・ケイナーがチーフストラテジーオフィサー（最高経営戦略統括責任者）に就任します。現チーフストラテジーオフィサーのナチョ・アビアは、23年間勤務したオリンパスを退職し、スペイン・バルセロナを拠点とする上場製薬会社のCEOに就任する予定です。ナチョがオリンパスを離れることは大変残念ではありますが、彼の新たな門出に心から祝福を送りたいと思います。
- それでは、3名の新たな執行役である泉竜也、ボリス・シュコルニック、倉本聖治について、簡単にご紹介いたします。
- まず、チーフファイナンシャルオフィサー（最高財務責任者）に就任予定の泉竜也です。泉は総合商社の伊藤忠商事とグループ企業で財務部門を統括した経験を有しており、当社においてファイナンスにおけるガバナンスのさらなる強化および効率性・収益性の向上に貢献していただくことを期待しています。
- 続いて、チーフクオリティオフィサー（最高品質法規制責任者）に就任予定のボリス・シュコルニックです。当社は現在総合的な品質変革プログラム「Elevate」を推進していますが、ボリスは「Elevate」の各施策を監督する役割を担っており、その強いリーダーシップによって、患者さんの安全を第一とする文化を醸成する取り組みを進めています。チーフクオリティオフィサーのピエール・ボワシエは、2025年3月期も一定期間クオリティエグゼクティブ・アドバイザーとして業務にあたる予定です。引き続き全社を挙げて「Elevate」を確実に遂行していくことで、グローバル・メドテックカンパニーとして要である品質保証・法規制対応における強固な基盤を構築してまいります。
- そして、現在治療機器事業の共同責任者を務めている倉本聖治は、当社の医療事業において幅広い経験を持ち、研究開発、営業、マーケティングに加え、ソニーをはじめとするビジネスパートナーと数々のイノベーションを実現してきました。執行役セラピューティックソリューションズディビジョンヘッド（最高治療機器事業責任者）に就任し、治療機器事業の成長をさらに加速させてまいります。なお、倉本をサポートする治療機器事業の共同責任者として、新たにボストンを拠点とするGabriel McHughが就く予定です。
- 私はオリンパスに強固な人材パイプラインがあることを嬉しく思っており、この10名の新執行役体制により、来期以降もさらなる企業価値の向上と持続的な成長を実現してまいります。

Key Message

✓ 総合的な品質変革プログラム「Elevate」の順調な進捗

- FDA指摘事項への対応と将来に向けた変革はどちらも順調に進捗
- 患者さんの安全に最も重点を置き、新たなコアバリューを制定

✓ 中国や出荷停止などの一時的な要因を除き堅調な成長

- 北米においてEVIS X1のローンチに成功
- 政策の影響を受けた中国を除けば、第3四半期（10-12月）は売上高+4%（為替影響調整後）と堅調に成長

✓ M&Aや他社協業を通じ、ケア・パスウェイの強化を加速

- 消化器用メタリックステントメーカー-Taewoong Medical社の買収により、さらなる医療水準の向上に寄与し、消化器科市場におけるポジションを一段と強化
- ソニーとの協業により、次世代内視鏡システムのソフトウェア開発力を強化し、開発サイクルの短縮を目指す
- キヤノンメディカルシステムズと超音波内視鏡システムの技術進化および診断性能向上に注力することを合意

OUR PURPOSE 私たちの存在意義

Making people's lives healthier, safer and more fulfilling
世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現

OUR CORE VALUES



PATIENT FOCUS 患者さん第一

私たちは、いかなる時も患者さんを最優先に考えて行動します



INTEGRITY 誠実

私たちは、正しい行動を取ります



INNOVATION イノベーション

私たちは、物事をより良くするために、新しい方法を追求します



IMPACT 実行実現

私たちは、結果に対する責任を持ち、やり遂げます



EMPATHY 共感

私たちは、お互いを思いやり、協力し合います

(スライド5)

- ご理解の通り、当社の最優先事項は患者さんの安全であり、米国食品医薬品局（FDA）から受領した3通の警告書における指摘事項の改善と患者さんの安全に最も重点を置いた最高水準の企業に向けた全社の変革に取り組んでいます。
- 改善活動は順調に進捗しており、規制当局との関係も建設的で確固たるものであることをご報告できることを嬉しく思います。なお、2024年3月期は「Elevate」に係る費用として、約300億円（販管費約70億円、その他費用約230億円）を見込んでいますが、この費用は2025年3月期以降減少する見込みです。
- 企業文化はあらゆる変革において極めて重要な役割を果たしますが、当社は2024年1月31日に「患者さん第一」「誠実」「イノベーション」「実行実現」「共感」からなる新たな「Our Core Values 私たちのコアバリュー」を制定しました。オリンパスは、従業員の行動様式として2018年に初めて「私たちのコアバリュー」を制定し、これまでのコアバリューはオリンパスにとって十分な役割を果たしてきましたが、当社は今、メドテックカンパニーとなり、患者さんの安全と顧客中心を重視した文化を浸透させることはもちろん、進化する業界の中ですべてのステークホルダーから品質やイノベーションなどのあらゆる面で評価されるグローバルメドテックカンパニーへと成長するためにコアバリューを見直しました。
- 当社の中核事業は消化器科分野を中心に引き続き堅調で、着実に成長しています。ただ、残念ながら、全体的な成長ストーリーにマイナスの影響を及ぼす一時的な向かい風に直面し続けています。中国における反腐敗運動による入札活動の遅れや、一部製品の出荷停止、その他の地域的な逆風はその一例であり、新たに能登地震による影響も成長の障害となります。一方で、中国を除けば、売上高は第3四半期（10-12月）において為替影響調整後+4%と堅調に成長しています。新製品のEVIS X1を販売開始した北米では、発売当初から好調に推移しており、受注量も高い水準です。消化器科処置具も北米で2桁成長を続けています。
- 最後に、今後の持続的な成長に向けた手段として、M&Aや他社協業を積極的に実行しました。具体的には、消化器用メタリックステントメーカー-Taewoong Medical社の買収や、ソニーとの消化器呼吸器内視鏡分野における協業、キヤノンメディカルシステムズとの超音波内視鏡システムの協業への合意です。

売上成長を牽引する消化器科領域

北米における消化器科領域で顕著な成長

消化器内視鏡

北米での売上割合



消化器科の学会DDW
(Digestive Disease Week) (2023/5)



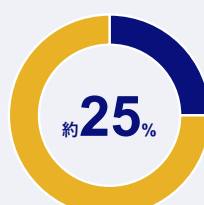
米国消化器病学会 (2023/10)

北米におけるFY2024 3Q成長率

+9%*

消化器科処置具

北米での売上割合

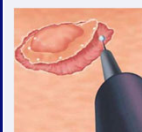


注力領域

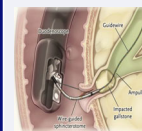
大腸がんの
検出**



大腸がんの
治療



肝胆膵疾患



北米におけるFY2024 3Q累計成長率

+15%*

* 為替影響調整後の成長率 ** 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

(スライド6)

- 本日、私からは売上成長を牽引している北米における消化器科領域をご紹介します。
- まずは、消化器内視鏡です。当社は、2023年10月より消化器内視鏡システム「EVIS X1」を米国で販売開始しました。米国においては、4月末にFDAより510(k)クリアランスを取得し、5月に開催された消化器科の学会DDW (Digestive Diseases Week) 以降、複数の学会などで展示及びデモンストレーションを行ってまいりました。EVIS X1発売後の第3四半期は+9%*成長と好調に推移しています。直近の受注状況も好調であり、第4四半期は供給不足による影響を除くと+30%超*の成長を見込んでいます。なお、北米市場は当社の消化器内視鏡分野の売上高のうち、全体の約35%を占めています。
- つづいて、消化器科処置具です。当社の消化器科処置具分野の売上高のうち、北米市場での売上は全体の約25%を占める中、2023年3月期第2四半期から6四半期連続で対前年2桁成長しており、2024年3月期第3四半期累計の売上も+15%**成長と好調な伸びを続けています。特に大腸がんの検出（大腸内視鏡先端アタッチメント「ENDOCUFF VISION」など）、大腸がんの治療（ESD・EMR用の製品群など）、肝胆膵疾患（バスケット鉗子、バルーンカテーテル、パウダー状止血剤など）の3つの臨床領域が中核となり、成長が顕著です。今後もこのポートフォリオに投資を続け、事業拡大を図っていきます。

*北米における消化器内視鏡分野の対前年成長率（為替影響調整後）

**北米における消化器科処置具分野の対前年成長率（為替影響調整後）

Taewoong Medical社の買収により、消化器科疾患における ケア・パスウェイ戦略とポジションを一段と強化



*医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております **STARmed社と長期的なグローバル独占販売契約を締結

(スライド7)

- M&Aの状況についてご説明します。先日、Taewoong Medical社の買収が完了しました。この買収は、新しいセグメントを開拓してケア・パスウェイ戦略を強化するとともに、オリンパスにさらなる相乗効果をもたらし、消化器科全体の成長に貢献します。
- オリンパスは消化器内視鏡で大きな成功を収めており、消化器科処置具のビジネスを通じて補完的な成長ドライバーを生み出してきました。
- 消化器科処置具において、好調に推移している領域の一つが肝胆膵疾患の治療です。
- 肝胆膵疾患は10億ドル超の市場であり、当社が市場をリードしています。
- 肝胆膵疾患の領域では、当社が強固なポジションを誇る消化器内視鏡の幅広いポートフォリオや、ガイドワイヤ等、アクセスや治療の改善を図るデバイスの開発によりイノベーションを実現し成功を収めてきました。
- メタルステントおよび高周波アブレーションのソリューションは、肝胆膵疾患において非常に重要なものであるだけでなく、肝胆膵疾患以外での使用も急速に増加しており、当社のポートフォリオに追加されることを嬉しく思います。
- これらの新しいソリューションは、オリンパスがこれまで対応できなかった内視鏡による軟部組織アブレーションなどの手技を可能にするとともに、中国や日本など新たな地域を開拓することにもつながります。
- メタルステントの技術を社内に取り込み、高周波アブレーションカテーテルの独占販売契約を締結したことにより、当社が対応できる新しいセグメントが開拓され、肝胆膵疾患のポートフォリオが強化されます。
- それでは続いて、CFOの武田 睦史よりご説明させていただきます。



2024年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2024年2月14日

(スライド8)

- CFOの武田でございます。
- 私から2024年3月期 第3四半期の連結決算概況および通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

第3四半期及び累計実績

✓ 引き続き、地域別では全分野で成長したアジア・オセアニア、セグメント別では医療サービスが好調に推移し、増収。成長投資や事業運営基盤強化、効率性向上のためのプロジェクト費用に加え、Veran Medical Technologies社関連の損失計上などにより減益

- 売上高： 連結で+5%成長。医療分野は3Q及び累計において過去最高の売上高
- 調整後営業利益： 持続的成長に向けて、総合的な品質変革プログラム「Elevate」、イノベーション、生産性向上を目的とした事業運営基盤の整備・強化などへの投資を継続し、減益
- 当期利益*： 科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,352億円、EPSは192円
- その他： FDAと建設的な対話を行いつつ、警告書によって指摘された課題への対処は順調に進捗

通期業績見通し

✓ 能登半島地震の影響など社内外のさまざまな要因による影響を踏まえ、修正。向かい風が続く中、課題への対策を積極的に講じるとともに、持続的な成長に向けた投資を継続する

- 売上高： 前期比5%増の9,240億円を見込む
- 調整後営業利益： 前期比18%減の1,450億円、調整後営業利益率は15.7%を見込む
- 当期利益*： エビデントの譲渡益を計上し過去最高の2,520億円、EPSは208円となる見通し

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド9)

- 2024年3月期 第3四半期決算における主なポイントです。
- 売上高は連結で5%増加し、医療分野は第3四半期及び累計としても過去最高の売上高となりました。
- 一方で、内視鏡事業での小腸内視鏡システムなどの自主回収に伴う費用約50億円の引当計上や、持続的成長に向けて、総合的な品質変革プログラム「Elevate」、イノベーション、生産性向上を目的とした事業運営基盤の整備・強化などへの投資を継続し、減益となりました。
- 総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る費用は、販管費で約41億円、その他費用で約170億円発生しました。主な内容は、コンプライアンス対応や医療機器報告（MDR）、プロセスおよび設計の検証となり、FDAをはじめとした各国当局の医療機器に対する品質保証機能を強化することを目的としています。これまで、FDAとは建設的な対話を行っており、警告書によって指摘された課題への対処は順調に進捗しています。
- その他損益を除外した調整後営業利益は▲14%の減益、調整後営業利益率は16.3%です。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、科学事業（エビデント）の譲渡益を当期第1四半期に計上し、過去最高の2,352億円、EPSは192円となりました。
- 続いて2024年3月期の通期業績見通しです。
- 前回見通しから為替前提の変更に加え、第2四半期決算説明会においてご説明した社内外のさまざまな要因による影響を第3四半期までの実績を踏まえて見直すとともに、能登半島地震の影響など成長を一時的に減速させる可能性のある新たな要因を織り込み、修正を行いました。
- 売上高は、前期比5%増の9,240億円、調整後営業利益は前期比18%減の1,450億円を見込んでいます。調整後営業利益率は15.7%となる見通しです。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、過去最高の2,520億円、EPSは208円となる見通しです。



01

2024年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

(スライド10)

- それでは、2024年3月期 第3四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2024年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高：連結で+5%成長。医療分野は3Q及び累計において過去最高の売上高
- 2 調整後営業利益：持続的成長に向けて、総合的な品質変革プログラム「Elevate」、イノベーション、生産性向上を目的とした事業運営基盤の整備・強化などへの投資を継続し、減益
- 3 当期利益*：科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,352億円、EPSは192円

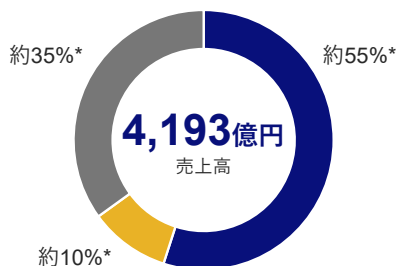
| | 第3四半期累計実績（4-12月） | | | | 第3四半期実績（10-12月） | | | | | |
|------------------|-------------------------------|------------------|------------------|-------|-----------------|--------|------------------|------------------|---------|------|
| | （単位：億円） | FY2023 | FY2024 | 前期比 | 為替影響調整後 | FY2023 | FY2024 | 前期比 | 為替影響調整後 | |
| 継続事業 | 売上高 | 6,415 | 6,757 | ▲1 | +5% | +1% | 2,245 | 2,391 | +6% | +2% |
| | 売上総利益 （売上総利益率） | 4,337 (67.6%) | 4,514 (66.8%) | | +4% | ▲1% | 1,562 (69.6%) | 1,630 (68.2%) | +4% | ▲1% |
| | 販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率） | 3,061 (47.7%) | 3,409 (50.5%) | | +11% | +7% | 1,076 (47.9%) | 1,193 (49.9%) | +11% | +6% |
| | その他の収益および費用など | 149 | ▲715 | | - | - | 3 | ▲95 | - | - |
| | 営業利益 （営業利益率） | 1,426 (22.2%) | 390 (5.8%) | | ▲73% | ▲77% | 490 (21.8%) | 342 (14.3%) | ▲30% | ▲37% |
| | 調整後営業利益 （調整後営業利益率） | 1,281 (20.0%) | 1,102 (16.3%) | 2 | ▲14% | ▲22% | 488 (21.7%) | 436 (18.2%) | ▲11% | ▲18% |
| | 税引前利益 （税引前利益率） | 1,394 (21.7%) | 330 (4.9%) | | ▲76% | | 500 (22.3%) | 340 (14.2%) | ▲32% | |
| | 継続事業からの当期利益 （継続事業からの当期利益率） | 1,056 (16.5%) | 75 (1.1%) | | ▲93% | | 361 (16.1%) | 190 (7.9%) | ▲47% | |
| | 非継続事業からの当期利益 | 28 | 2,281 | | +2,253億円 | | 53 | ▲1 | ▲54億円 | |
| | 当期利益 | 1,084 | 2,356 | | +117% | | 414 | 189 | ▲225億円 | |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 | 1,082 | 2,352 | 3 | +117% | | 414 | 189 | ▲225億円 | | |
| EPS | 85円 | 192円 | | | | - | - | | | |

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

（スライド11）

- まず、連結業績の概況です。
- 連結売上高は6,757億円です。医療分野は第3四半期及び累計としても過去最高の売上高となり、連結で5%の成長となりました。内視鏡事業、治療機器事業、その他事業の全ての事業で増収です。地域別では為替の追い風も受け、中国を除く全地域で増収となり、セグメント別では医療サービス、消化器科処置具が好調に推移しています。
- 売上総利益は4,514億円、売上総利益率は0.8ポイントの悪化です。内視鏡事業で小腸内視鏡システムなどの自主回収に伴う費用約50億円を引当計上したことなどにより、悪化しました。
- 販管費は3,409億円、販管費比率は2.7ポイントの悪化です。主な要因は、持続的成長に向けた、総合的な品質変革プログラム「Elevate」、イノベーション、生産性向上を目的とした事業運営基盤の整備・強化などへの投資です。
- 調整後営業利益は1,102億円、前期比で180億円、14%減少しました。調整後営業利益率は3.7ポイント悪化し、16.3%でした。
- その他の損益などは▲715億円です。Veran Medical Technologies社の電磁ナビゲーションシステムなどの製造・販売終了に伴う損失約508億円や、総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る費用約170億円を計上しました。前期は、東京都内の土地の売却益約164億円を計上するなど149億円のプラスでした。
- 継続事業の当期利益は75億円となりました。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を当期第1四半期に計上し、継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は2,352億円、EPSは192円となりました。

2024年3月期 第3四半期実績 ②内視鏡事業



| (単位: 億円) | FY2023 | | FY2024 | |
|---------------------------|--------------|--------------|----------------------|----------------------|
| | 3Q | 3Q累計 | 3Q | 3Q累計 |
| 売上高 | 1,405 | 3,990 | 1,484 | 4,193 |
| 営業利益 | 418 | 1,107 | 327 | 836 |
| その他の損益** | ▲9 | ▲23 | ▲41 | ▲119 |
| 調整後営業利益 | 427 | 1,130 | 368 | 955 |
| 営業利益率 (為替影響調整後) | 29.7% | 27.7% | 22.0% (21.0%) | 19.9% (18.9%) |
| 調整後営業利益率 (為替影響調整後) | 30.4% | 28.3% | 24.8% (23.9%) | 22.8% (21.8%) |

FY2024 vs FY2023 (10-12月) 売上高成長率

為替影響 調整後

円ベース 為替込み

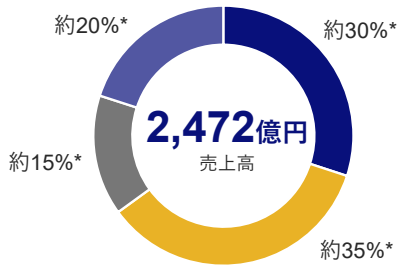
| セグメント | 為替影響調整後 | 説明 | 円ベース為替込み |
|----------|---------|---|----------|
| ■ 消化器内視鏡 | ▲3% | 中国での反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を大きく受け、減収。消化器内視鏡システム「EVIS X1」を販売開始した北米では為替影響調整後+9%の成長。 | 1% |
| ■ 外科内視鏡 | 1% | 新製品の外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」が好調に推移している日本、欧州、アジア・オセアニアが増収に貢献の一方、事業環境が厳しい中、一部製品の出荷停止による影響を受けた北米と中国で減収。 | 6% |
| ■ 医療サービス | 8% | 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、全地域でプラス成長 | 14% |
| 合計 | 1% | | 6% |

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります **決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(スライド12)

- 各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は4,193億円、円ベースで5%、為替影響調整後で1%のプラス成長でした。その他の収益/費用を除外した調整後営業利益は955億円、調整後営業利益率は22.8%でした。
- 各分野の第3四半期（10-12月）の事業概況についてお話しします。
- 中国を除く全地域で円ベース、為替影響調整後ともに増収となりました。
- 消化器内視鏡では、中国での反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を大きく受け、減収となりました。2023年10月より消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売を開始している北米では、為替影響調整後+9%の成長です。
- なお、第3四半期における「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡のサブセグメントの中で約20%となっています。
- 外科内視鏡では、新製品の外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」が好調に推移している日本、欧州、アジア・オセアニアが増収に貢献しました。一方で、事業環境が厳しい中、一部製品の出荷停止による影響を受けた北米と中国において減収となりました。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加などもあり、全地域でプラス成長となりました。

2024年3月期 第3四半期実績 ③治療機器事業



| (単位: 億円) | FY2023 | | FY2024 | |
|---------------------------|--------------|--------------|----------------------|----------------------|
| | 3Q | 3Q累計 | 3Q | 3Q累計 |
| 売上高 | 810 | 2,339 | 875 | 2,472 |
| 営業損益 | 183 | 481 | 124 | ▲162 |
| その他の損益** | 13 | 12 | ▲38 | ▲585 |
| 調整後営業利益 | 170 | 470 | 162 | 423 |
| 営業利益率 (為替影響調整後) | 22.6% | 20.6% | 14.1% (14.0%) | - |
| 調整後営業利益率 (為替影響調整後) | 21.0% | 20.1% | 18.5% (18.6%) | 17.1% (17.0%) |

FY2024 vs FY2023 (10-12月)
売上高成長率

為替影響
調整後

円ベース
為替込み

| | | | |
|------------|-----|---|-----|
| ■ 消化器科処置具 | 9% | ■ 北米を中心に好調に推移。肝胆膵疾患（ERCP製品など）や、大腸がんの検出（ENDOCUFF VISION****など）、大腸がんの治療（ESD/EMR製品など）の領域で成長が顕著 | 14% |
| ■ 泌尿器科 | ▲2% | ■ 主要製品を含み一時的な出荷停止や供給不足が発生した影響や競争環境の激化が見られた北米に加え、反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を受けた中国で減収 | 3% |
| ■ 呼吸器科 | ▲3% | ■ 一部製品の供給不足や反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響に加え、前年COVID関連の補助金効果が見られた中国で減収。Veran Medical Technologies社製品の販売終了も影響 | 2% |
| ■ その他の治療領域 | 7% | ■ エネルギーデバイスを中心に売上が増加。他社製品の取り扱い終了前に需要が増加した日本が増収に寄与 | 12% |
| 合計 | 3% | | 8% |

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります **決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値 ***医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

(スライド13)

- 治療機器事業です。売上高は2,472億円、円ベースで6%のプラス成長、為替影響調整後で1%のプラス成長でした。その他の収益/費用を除外した調整後営業利益は423億円、調整後営業利益率は17.1%でした。
- 各分野の第3四半期（10-12月）の事業概況についてお話しします。
- 中国を除く全地域で円ベース、為替影響調整後ともに増収となりました。
- 消化器科処置具では、北米を中心に好調に推移しました。肝胆膵疾患（膵管や胆管などの内視鏡診断・治療に使用するERCP（Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography/内視鏡的逆行性胆道膵管造影術）用の製品群など）や、大腸がんの検出（大腸内視鏡先端アタッチメントENDOCUFF VISIONなど）、大腸がんの治療（病変の切除に使用されるESD（Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜下層剥離術）・EMR（Endoscopic Mucosal Resection/内視鏡的粘膜切除術）用の製品群など）の領域で顕著に成長しました。
- 泌尿器科では、主要製品を含み一時的な出荷停止や供給不足が発生した影響や競争環境の激化が見られた北米に加え、反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を受けた中国で減収となりました。
- 呼吸器科では、一部製品の供給不足や反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響に加え、前年COVID関連の補助金効果が見られた中国において減収となりました。Veran Medical Technologies社製品の販売終了も影響しています。
- その他の治療領域では、エネルギーデバイスを中心に売上が増加しました。他社製品の取り扱い終了前に需要が増加した日本が増収に寄与しています。

財政状態計算書

- ☑ エビデント譲渡による現金・利益の増加と為替影響（約620億円）の一方、自己株式取得により現預金1,600億円*が減少
- ☑ Veran Medical Technologies社の減損を主因にのれん・無形資産が減少
- ☑ エビデントの株式譲渡完了に伴い、売却目的で保有する資産および、それに直接関連する負債の額が変動

| (単位：億円) | 2023年3月末** | 2023年12月末 | 増減額 | | 2023年3月末** | 2023年12月末 | 増減額 |
|-------------|---------------|---------------|-------------|----------------------|---------------|---------------|-------------|
| 流動資産 | 7,264 | 7,882 | +618 | 流動負債 | 4,619 | 3,800 | ▲819 |
| 棚卸資産 | 1,630 | 1,865 | +235 | 社債および借入金 | 500 | 800 | +300 |
| 売却目的で保有する資産 | 1,696 | - | ▲1,696 | 売却目的で保有する資産に直接関連する負債 | 433 | - | ▲433 |
| 非流動資産 | 7,823 | 6,799 | ▲1,024 | 非流動負債 | 4,056 | 3,382 | ▲673 |
| 有形固定資産 | 2,387 | 2,494 | +107 | 社債および借入金 | 2,901 | 2,247 | ▲654 |
| 無形資産 | 1,168 | 992 | ▲175 | 資本 | 6,412 | 7,499 | +1,086 |
| のれん | 1,813 | 1,728 | ▲85 | 自己資本比率 | 42.4% | 51.1% | +8.7pt |
| 資産合計 | 15,087 | 14,681 | ▲406 | 負債および資本合計 | 15,087 | 14,681 | ▲406 |

*総額で1,800億円を予定

**当第3四半期連結累計期間において、2022年12月に買収したOdin Medical Ltd.の取得資産と引受負債の公正価値を修正したことにより、2023年3月末の連結財政状態計算書を遡及修正しています

(スライド14)

- 2023年12月末の財政状態です。
- バランスシートは406億円の減少となりました。
- 為替影響約620億円に加え、エビデント譲渡によって現金・利益が増加したものの、自己株式取得や長期借入金の返済による現預金の減少やVeran Medical Technologies社の減損などによるのれん・無形資産の減少が主な要因です。
- エビデントの株式譲渡完了に伴い、「売却目的で保有する資産」は1,696億円減少し、「売却目的で保有する資産に直接関連する負債」は433億円減少しました。
- 自己資本比率は前期末比で8.7ポイント増加し、51.1%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に営業CFが減少したものの、エビデントの株式譲渡対価の受領などにより、FCFは大幅増。特殊要因を考慮した調整後FCFは310億円のプラス
 - ☑ 財務CF： 自己株式の取得（1,600億円*）や長期借入金の返済、配当金支払を主要因に、2,408億円のマイナス
- 第3四半期実績（4-12月）

| （単位：億円） | | FY2023 | FY2024 | 増減 | |
|---------|-------|----------------|--------|--------|--------|
| 継続事業 | 非継続事業 | 税引前利益 | 1,394 | 330 | ▲1,064 |
| | | 営業キャッシュフロー | 549 | ▲129 | ▲678 |
| | | 投資キャッシュフロー | ▲379 | 3,914 | +4,293 |
| | | フリーキャッシュフロー | 171 | 3,786 | +3,615 |
| | | 調整後フリーキャッシュフロー | 424 | 310 | ▲114 |
| | | 財務キャッシュフロー | ▲1,124 | ▲2,408 | ▲1,284 |
| | | 現金および現金同等物期末残高 | 2,113 | 3,486 | +1,372 |

2023年3月期第3四半期（4-12月）の主な特殊要因

| | |
|----------------------------|--------|
| 営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など | ▲348億円 |
| 投資CF：固定資産（土地）の売却による収入など | +191億円 |
| 投資CF：投資有価証券、事業・子会社の取得など | ▲75億円 |
| 投資CF：科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など | ▲21億円 |

*総額で1,600億円を予定

2024年3月期第3四半期（4-12月）の主な特殊要因

| | |
|--------------------------|----------|
| 営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払 | ▲873億円 |
| 投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領 | +3,852億円 |
| 投資CF：エビデントに対する貸付金の回収 | +520億円 |

（スライド15）

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、129億円のマイナスとなりました。エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に減少となりました。
- 投資キャッシュフローは、3,914億円のプラスとなりました。エビデントの株式譲渡対価などの受領や、エビデントに対する貸付金の回収などにより増加しています。
- フリーキャッシュフローは、3,786億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後の営業キャッシュフローは747億円のプラス、調整後のフリーキャッシュフローは310億円のプラスとなりました。
- なお、Veran Medical Technologies社の電磁ナビゲーションシステムなどの製造・販売終了に伴う損失は、のれん、無形資産の減損が主要因のためキャッシュフローへの影響は軽微となります。
- 財務キャッシュフローは、2,408億円のマイナスとなりました。自己株式の取得や長期借入金の返済、配当金の支払いを行ったことが主要因です。
- 結果、2023年12月末の現金および現金同等物残は1,372億円増の3,486億円となりました。



02

2024年3月期 通期業績見通し

(スライド16)

- 次に、2024年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

- 1 売上高： 前期比5%増の9,240億円を見込む
- 2 調整後営業利益： 前期比18%減の1,450億円、調整後営業利益率は15.7%を見込む
- 3 当期利益*： エビデントの譲渡益を計上し過去最高の2,520億円、EPSは208円となる見通し

| (単位：億円) | | 2024年3月期 11月9日公表見通し | 2024年3月期 最新見通し | 増減 | 前回 見通し比 | 為替影響 調整後 | 2023年3月期 通期実績 | 前期比 | 為替影響 調整後 |
|---|-------------------------------|------------------------|--------------------|------------|------------|------------------|------------------|------|-------------|
| ** 継続事業 | 売上高 | 9,580 | 1 9,240 | ▲340 | ▲4% | ▲3% | 8,819 | +5% | ▲1% |
| | 売上総利益 (売上総利益率) | 6,500 (67.8%) | 6,150 (66.6%) | ▲350 | ▲5% | ▲5% | 5,968 (67.7%) | 3% | ▲3% |
| | 販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率) | 4,760 (49.7%) | 4,700 (50.9%) | ▲60 | ▲1% | ▲1% | 4,205 (47.7%) | +12% | +7% |
| | その他の収益および費用など | ▲740 | ▲880 | - | - | - | 103 | - | - |
| | 営業利益 (営業利益率) | 1,000 (10.4%) | 570 (6.2%) | ▲430 | ▲43% | ▲44% | 1,866 (21.2%) | ▲69% | ▲76% |
| | 調整後営業利益 (調整後営業利益率) | 1,745 (18.2%) | 2 1,450 (15.7%) | ▲295 | ▲17% | ▲17% | 1,768 (20.0%) | ▲18% | ▲28% |
| | 税引前利益 (税引前利益率) | 920 (9.6%) | 510 (5.5%) | | | | 1,823 (20.7%) | | |
| | 継続事業からの当期利益 | 610 (6.4%) | 240 (2.6%) | | | | 1,380 (15.7%) | | |
| | 非継続事業からの当期利益 | 2,280 | 2,280 | | | | 56 | | |
| | 当期利益 | 2,890 | 2,520 | | | | 1,436 | | |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率) | 2,890 (30.2%) | 2,520 (27.3%) | | | | 1,434 (16.3%) | | | |
| EPS | 238円 | 208円 | | | | 113円 | | | |
| | | | | 2024年3月期配当 | | | | | |
| | | | | 年間配当18円を予定 | | | | | |

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド17)

- 2024年3月期の通期業績見通しです。
- 前回見通しから為替前提の変更に加え、第2四半期決算説明会においてご説明した社内外のさまざまな要因による影響を第3四半期までの実績を踏まえて見直しました。
- また、能登半島地震の影響として売上高に約240億円を織り込むなどの修正を行っています。
- なお、業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル143円、1ユーロ156円としています。
- 売上高は前期比5%増の9,240億円、調整後営業利益は前期比18%減の1,450億円、調整後営業利益率は15.7%となる見通しです。
- 当期利益は、エビデントの譲渡に伴う譲渡益を計上し、過去最高の2,520億円、EPSは208円となる見通しです。また、継続事業の当期利益は240億円、継続事業のEPSは20円を見込んでいます。
- 2024年3月期末の配当は、5月に公表した配当予想を据え置き、18円を予定しております。

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1 内視鏡事業： 能登半島地震や外科内視鏡における一部製品の出荷停止、中国での反腐敗運動による入札活動などの遅れの影響を主因に下方修正
- 2 治療機器事業： 供給遅延などに伴う売上減少に加え、中国における市場環境や能登半島地震の影響などを考慮し、下方修正
- 3 非継続事業： エビデントの譲渡益を計上し、前期から大幅増益を見込む

| (単位：億円) | | 2024年3月期 | 2024年3月期 | 増減 | 前回 見通し比 | 為替影響 調整後 | 2023年3月期 | 前期比 | 為替影響 調整後 |
|------------|------|------------|----------|------|------------|-------------|------------------|--------|-------------|
| | | 11月9日公表見通し | 最新見通し | | | | 2023年3月期 通期実績 | | |
| 内視鏡 | 売上高 | 6,040 | 5,750 | ▲290 | ▲5% | ▲4% | 5,518 | +4% | ▲1% |
| | 営業利益 | 1,500 | 1,110 | ▲390 | ▲26% | ▲26% | 1,528 | ▲27% | ▲36% |
| 治療機器 | 売上高 | 3,420 | 3,370 | ▲50 | ▲1% | ▲1% | 3,182 | +6% | 0% |
| | 営業損益 | ▲45 | ▲80 | ▲35 | ▲35億円 | ▲43億円 | 637 | ▲717億円 | ▲727億円 |
| その他 | 売上高 | 120 | 120 | - | - | - | 119 | +1% | ▲5% |
| | 営業損益 | 10 | 10 | - | - | - | ▲9 | +19億円 | +18億円 |
| 全社・消去 | 営業損益 | ▲465 | ▲470 | ▲5 | ▲5億円 | ▲6億円 | ▲289 | ▲181億円 | ▲165億円 |
| 連結合計 | 売上高 | 9,580 | 9,240 | ▲340 | ▲4% | ▲3% | 8,819 | +5% | ▲1% |
| | 営業利益 | 1,000 | 570 | ▲430 | ▲43% | ▲44% | 1,866 | ▲69% | ▲76% |
| (参考) 非継続事業 | 売上高 | 0 | 0 | - | - | - | 1,354 | - | - |
| | 営業利益 | 3,480 | 3,480 | - | - | - | 70 | - | - |

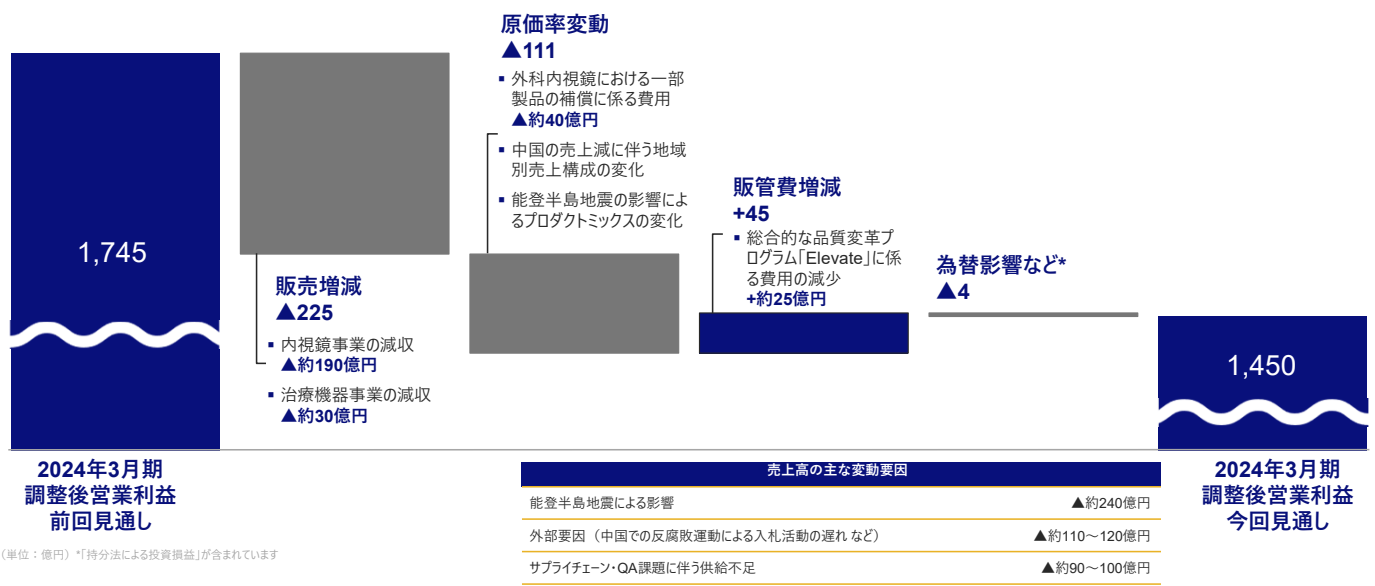
*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド18)

- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業は、能登半島地震や外科内視鏡における一部製品の出荷停止、中国での反腐敗運動による入札活動などの遅れの影響を主因に、前回の見通しから売上、営業利益ともに下方修正しています。
- 治療機器事業につきましても、品質対応、部材不足に伴う供給遅延に加え、中国における市場環境や能登半島地震の影響などを考慮し、前回の見通しから売上、営業利益ともに引き下げています。
- なお、総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る費用は、通期で販管費約70億円、その他費用約230億円発生する見込みです。

2024年3月期業績見通し 連結調整後営業利益増減要因（前回見通し比）

2024年3月期通期 11月9日公表見通し比



(スライド19)

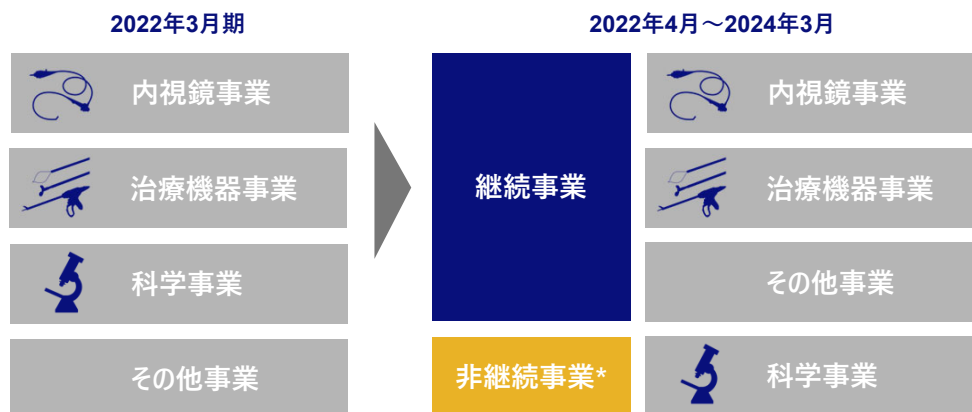
- こちらのスライドでは、前回見通し比の調整後営業利益の増減要因をお示ししています。
- すでにご説明の通り、今期は引き続きさまざまな要因によって厳しい状況が続いております。売上の減少に加え、一部製品の出荷停止の影響や、中国の売上減に伴う地域別売上構成の変化、能登半島地震の影響によるプロダクトミックスの変化などにより、調整後営業利益は1,450億円となる見込みです。
- 営業利益の増減要因についてはAppendixに掲載しておりますので、ご参照ください。ありがとうございました。

OLYMPUS

参考資料

開示の変更点

2024年3月期第1四半期に科学事業（エビデント）の譲渡を完了したことに伴い、
2023年3月期第2四半期より2024年3月期までは科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

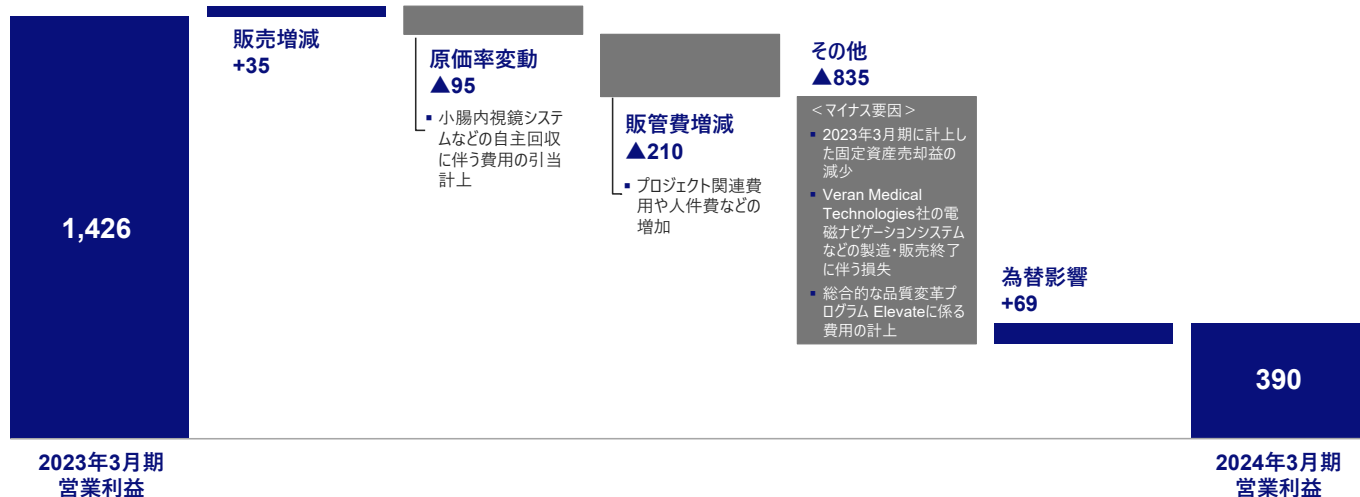


- 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、2023年4月に全株式の譲渡を完了しています

2024年3月期 第3四半期実績 連結営業利益増減要因

第3四半期累計実績（4-12月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2024年3月期 第3四半期実績 セグメント別概況

| 第3四半期累計実績（4-12月） | | | | | 第3四半期実績（10-12月） | | | | |
|------------------|----------|----------|-------|---------|-----------------|----------|-------|---------|------|
| （単位：億円） | 2023年3月期 | 2024年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | 2023年3月期 | 2024年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | |
| 内視鏡 | 売上高 | 3,990 | 4,193 | +5% | +1% | 1,405 | 1,484 | +6% | +1% |
| | 営業利益 | 1,107 | 836 | ▲25% | ▲31% | 418 | 327 | ▲22% | ▲29% |
| 治療機器 | 売上高 | 2,339 | 2,472 | +6% | +1% | 810 | 875 | +8% | +3% |
| | 営業損益 | 481 | ▲162 | ▲643億円 | ▲639億円 | 183 | 124 | ▲33% | ▲36% |
| その他 | 売上高 | 86 | 92 | +6% | +2% | 30 | 31 | +4% | ▲1% |
| | 営業損益 | ▲9 | 10 | +19億円 | +19億円 | ▲1 | 0 | +1億円 | +1億円 |
| 全社・消去 | 営業損益 | ▲153 | ▲293 | ▲140億円 | ▲136億円 | ▲110 | ▲108 | +3億円 | +4億円 |
| 連結合計 | 売上高 | 6,415 | 6,757 | +5% | +1% | 2,245 | 2,391 | +6% | +2% |
| | 営業利益 | 1,426 | 390 | ▲73% | ▲77% | 490 | 342 | ▲30% | ▲37% |
| （参考）非継 続事業 | 売上高 | 910 | 0 | - | - | 383 | 0 | - | - |
| | 営業損益 | 15 | 3,481 | - | - | 64 | ▲1 | - | - |

その他損益

前年同期比

| (単位：億円) | FY2023 3Q累計 | FY2024 3Q累計 | 増減 |
|---------|-------------|-------------|------|
| その他の収益 | 219 | 33 | ▲186 |

| 主な収益科目 | FY2023 3Q累計 | FY2024 3Q累計 | 増減 |
|----------------------------------|-------------|-------------|------|
| 土地売却益 164 Medi-Tate条件付対価戻入 13 | 177 | 11 | ▲166 |

| その他の費用 | FY2023 3Q累計 | FY2024 3Q累計 | 増減 |
|--------|-------------|-------------|----|
| 75 | 745 | +670 | |

| 主な費用科目 | FY2023 3Q累計 | FY2024 3Q累計 | 増減 |
|--|-------------|-------------|------|
| Transform Olympus等費用 22 開発資産減損 11 | 33 | 745 | +712 |
| Veran Medical Technologies社関連損失 508 総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る費用 170 社外転進支援費用 20 開発資産減損 14 | 712 | 745 | +33 |

通期見通し比

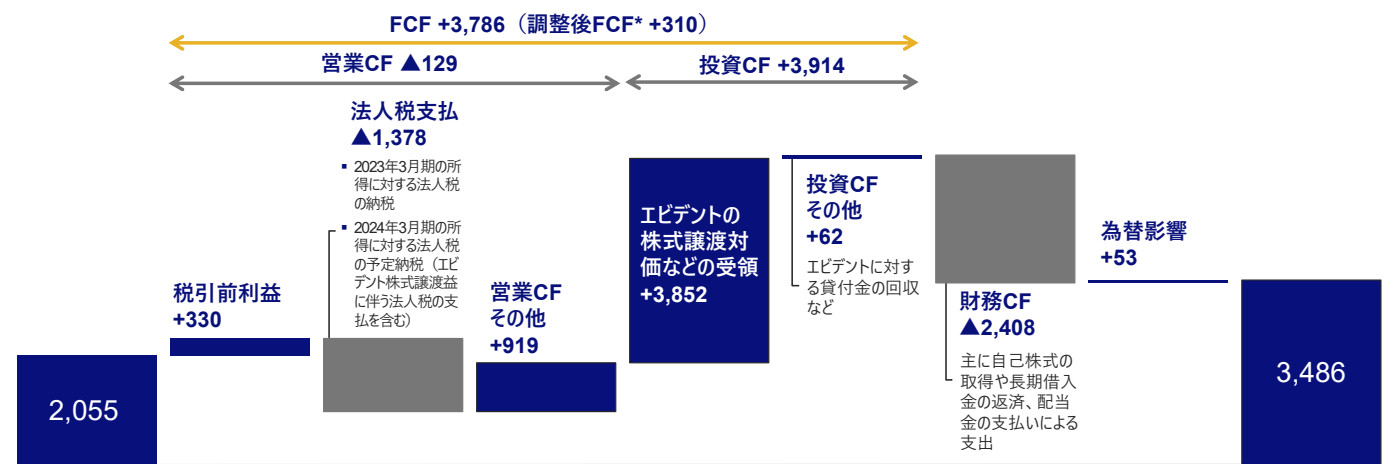
| (単位：億円) | FY2023 | FY2024 | 増減 |
|---------|--------|--------|------|
| その他の収益 | 237 | 35 | ▲202 |

| 主な収益科目 | FY2023 | FY2024 | 増減 |
|----------------------------------|--------|--------|------|
| 土地売却益 164 Medi-Tate条件付対価戻入 13 | 177 | 11 | ▲166 |

| その他の費用 | FY2023 | FY2024 | 増減 |
|--------|--------|--------|----|
| 139 | 915 | +776 | |

| 主な費用科目 | FY2023 | FY2024 | 増減 |
|---|--------|--------|------|
| Transform Olympus等費用 24 開発資産減損 18 | 42 | 915 | +873 |
| Veran Medical Technologies社関連損失 509 総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る費用 230 開発資産減損 79 社外転進支援制度の実施に伴う費用の計上 28 | 826 | 915 | +89 |

連結キャッシュフロー 増減要因



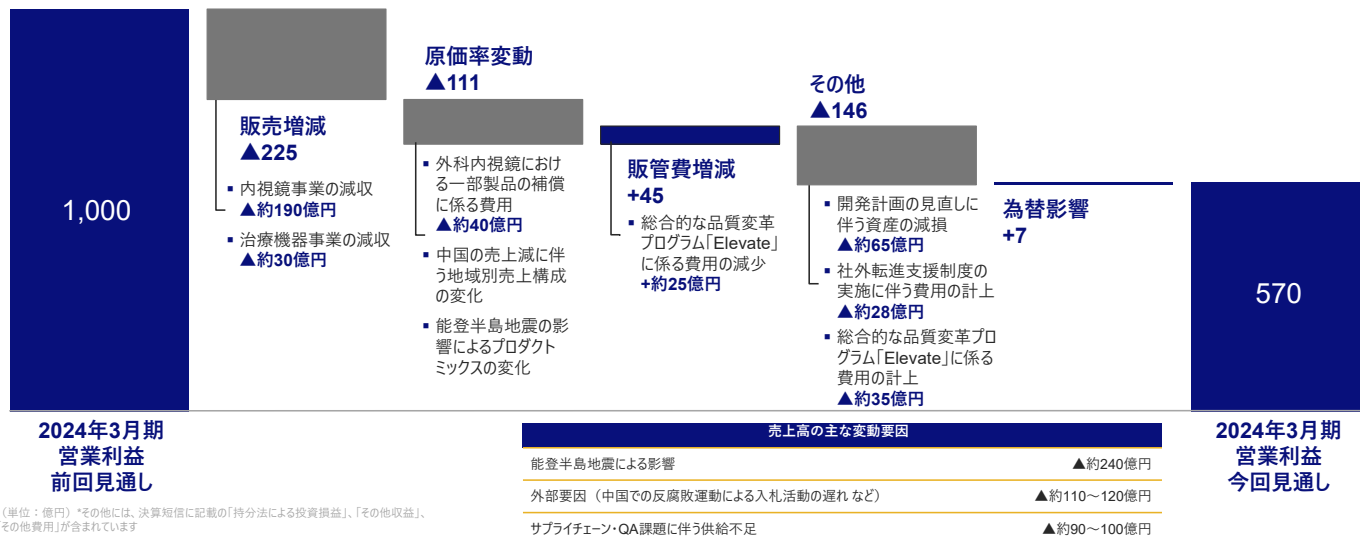
2023年3月末
現金および現金
同等物期末残高

| 2024年3月期第3四半期 (4-12月) の主な特殊要因 | |
|-------------------------------|----------|
| 営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払 | ▲873億円 |
| 投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領 | +3,852億円 |
| 投資CF：エビデントに対する貸付金の回収 | +520億円 |

2023年12月末
現金および現金
同等物期末残高

2024年3月期業績見通し 連結営業利益増減要因（前回見通し比）

2024年3月期通期 11月9日公表見通し比



(単位: 億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2024年2月14日時点)



2024年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入により、収益性を改善

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、中国)
- VISERA 4K UHD (米国、中国)
- VISERA ELITE III (欧州、日本)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国、中国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- 超音波画像診断装置Aplio i800 EUS (欧州、日本)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (アジア・オセアニア、米国)

中長期のパイプライン

消化器内視鏡

- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (中国)

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2024年2月14日時点)



2024年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリーにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- レゼクト電極
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州、アジア・オセアニア)

呼吸器科

- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア・オセアニア)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 1製品 (米国)
- 6製品 (欧州)
- 5製品 (日本)
- 1製品 (中国)

泌尿器科

- ESG-410 (米国、日本、アジア・オセアニア)
- シングルユース尿管鏡 (米国、アジア・オセアニア、日本)
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System (日本)
- iTind (米国、欧州、アジア・オセアニア)
- レゼクト電極 (中国)
- 硬性尿管鏡 (中国)

呼吸器科

- 新超音波気管支鏡 (米国、中国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- 超音波プロセッサ (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- 膀胱鏡
- カメラヘッド
- ビデオプロセッサ

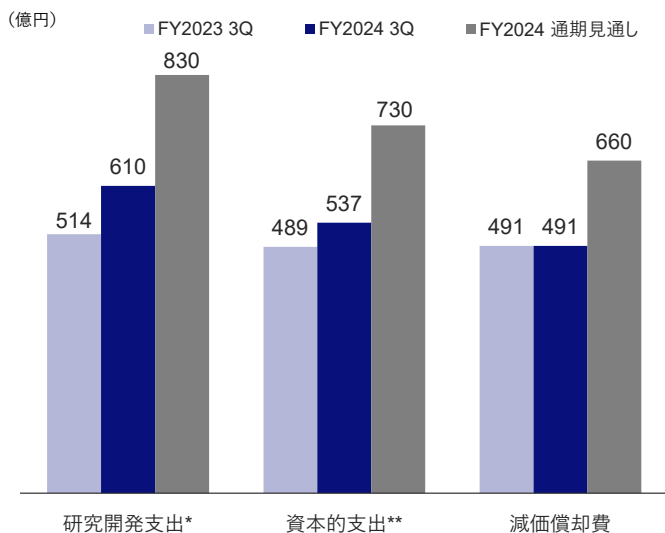
呼吸器科

- 細径超音波気管支鏡
- EVIS X1 気管支鏡 (中国)

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

投資など

第3四半期実績（4-12月）および通期見通し



| (単位：億円) | FY2023 | FY2024 |
|-----------------------|--------|--------|
| 研究開発支出* (a) | 514 | 610 |
| 開発費資産化 (b) | 88 | 103 |
| 損益計算書上における研究開発費 (a-b) | 426 | 507 |

| (単位：億円) | FY2023 | FY2024 |
|---------|----------|-----------|
| 償却費 | 62 | 63 |
| | 2023年9月末 | 2023年12月末 |
| 開発資産残高 | 608 | 626 |

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
 **資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2023 3Q：88億円、FY2024 3Q：103億円、FY2024 見通し：160億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1か月間の平均値を原則としている

為替

| (単位：円) | FY2023 1Q | FY2023 2Q | FY2023 3Q | FY2024 1Q | FY2024 2Q | FY2024 3Q | 前回見通し | FY2024 最新見通し |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|--------------|
| 円/ドル | 129.57 | 138.37 | 141.59 | 137.37 | 144.62 | 147.89 | 145 | 143 |
| 円/ユーロ | 138.12 | 139.34 | 144.30 | 149.47 | 157.30 | 159.11 | 155 | 156 |
| 円/人民元 | 19.58 | 20.19 | 19.87 | 19.56 | 19.94 | 20.44 | 20 | 20 |

為替感応度（年間）

| (単位：億円) | 売上高 | 営業利益 |
|------------|-----|------|
| ドル（1円あたり） | 25 | 7 |
| ユーロ（1円あたり） | 16 | 6 |
| 人民元（1円あたり） | 58 | 35 |

*為替感応度（年間）はFY2023Q4実績より算出しています。